

てヨークの大監督は次の様なことを言つて居る。

「長期間に亘る労働者の驚くべき薪酬は遂に破裂したのだ。彼等の心中には不平が鬱結してゐる。然も彼等は其の不平を抑制するに足る教育を受けて居らない。然も宗教並に立法上に現はれた各階級に於ける時代の精神は人生に対する意識を向上せしめる。此の徐々ではあるが、深く根ざされた労働者の思想の發達は、殆んど過去十五ヶ年間物價の騰貴によつて實感したる苦痛によつて、ある點まで持ち上つて來たのだ。成程、労働者の受ける名義上だけの貨銀から云へば、今日は昔と比べると幾分騰つてゐるかも知れない。然し物價の累々に銑じて貨銀の勝り方が少ないから結局労働者の得る眞の貨銀は以前よりは安くなつてゐる勘定である」と斯様に労働爭議の原因を説明してゐるのである。

私共は、労働者の手に入る眞の貨銀が、近年どの位の割合で下つて來たかといふ様な難問題を、ここで極く精密に取り調べる心要是ないと思ふ。然し兎に角十五年前よりは實質に於て貨銀は決して増加してゐないといふことだけは斷言することが出来る。詳しく述べば今から十五年前即ち千九百年(註この書物は千九百十五年に書られたものです)には八十種の物價が暴落したが、一般貨銀は下らなかつた。又九十種の物價は其の値であつたが貨銀は増加した。所がそれが今日になると、物價は次第に高くなるが、貨銀は一向増えないから結果收入は減少する。そ